

(独立行政法人 教職員支援機構 委嘱事業)

平成 29 年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

報 告 書

プログラム名	教師自身が「主体的・対話的で深い学び」を実現する「リスクマネジメント研修」講師養成プログラム
プログラムの特徴	<p>本プログラム開発では、中学校および高等学校の管理職および中堅教員（教員歴 10 年～20 年程度）を主たる対象とし、校内研修等で「リスクマネジメント」を学ぶ際に、「コンプライアンス意識の向上」をアクティブラーニングの手法を用いながら効果的に学び、身につける研修プログラムの開発・構築を目的とする。</p> <p>従来型の講義、ワークショップ等の研修形態に加えて、スマートフォンやパソコンで見ることができる動画コンテンツ、ワークブック型の必携書や概説書を併用することで、研修受講後も継続的に、日々の教育活動を省察し、自らの資質・能力を向上させていくことができる。</p>

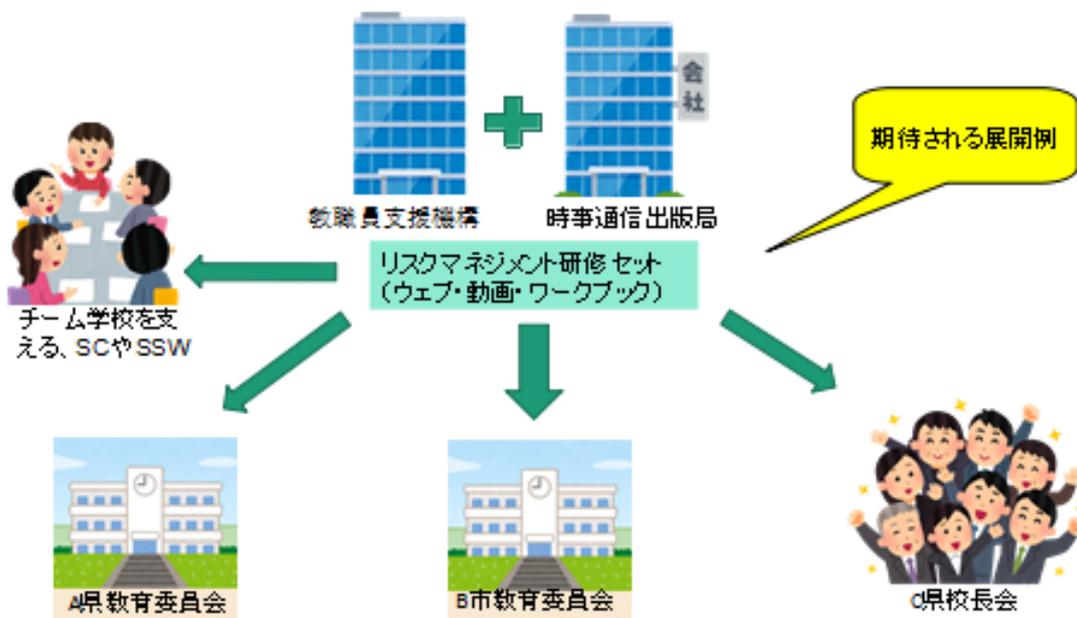
平成 30 年 3 月

機関名 (株)時事通信出版局

プログラムの全体概要



リスクマネジメント研修の全体像



開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

新学習指導要領の改訂の基本的理念を示した中央教育審議会答申（幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日）において指摘されているように、2030年の社会は、グローバル化が進み、急速な情報化や技術革新が起こる「知識基盤社会」となっていることが予測される。そうした変化が激しく、予測が難しい未来において活躍する現在の子どもたちを、社会に開かれた教育課程の下で適切に育成していくことが、学校に強く求められている。

一方、社会の価値観はますます多様化し、学校を取り巻く環境の変化には著しいものがある。子どもたちを温かく見守り、「学校の応援団」となってくれる方々がいる一方で、時折、「学校近隣トラブル」に発展するような、必ずしも学校には協力的ではない地域住民や保護者がいることも現実である。こうした地域との相克を乗り越え、子どもたちの未来のために適切な学校運営を行うために、リスクマネジメントに関する知識を持ち、適切に「チーム学校」の理念を実現する教職員の力量向上が不可欠である。

平成28年度に本支援事業で採択された「『チーム学校』時代における、アクティブラーニングを用いた『リスクマネジメント研修』講師養成プログラムの開発」は小学校を主体としてプログラム開発を行ってきたが、平成29年度は、中学校、高等学校等で取り組む際に指導できるプログラムおよび教材を開発・構築してきた。

職員が生徒や保護者、地域の方々から信頼される基礎となる、「コンプライアンス意識の向上」をアクティブラーニングの手法を用いながら効果的に学び、身につける研修プログラムの開発・構築を行ってきた。具体的には、部活動における「熱中症事故」、「落雷事故」、学校行事における「組体操」「騎馬戦」、校内における清掃中の事故、理科実験、家庭科調理中の事故など、教育活動に潜在的にあるリスクを扱った。

「リスクマネジメント」は、日常に潜むリスクをいかにして察知し回避するかという感覚を養うことが主たる目的となる。これは担任教員をはじめ、日々、子どもたちと直接接する教職員すべてに求められる資質・能力である。

本プログラムでは、動画コンテンツ、研修用ウェブサイトで基礎的な知識等を身につけた上で、アクティブラーニングの手法を活用したワークショップや事例研究の演習などで、より実践的な内容を学んできた。また、課題は学校ごとに異なるため、自校では何に気を付けて、充実した学校運営・活動ができるかを、教員自らの課題として考えることができるプログラムを開発・構築した。

「チーム学校」を実現するための、先輩教師が後輩教師を丁寧に指導する「メンター方式」も取り入れながら、大学の教職課程で学んできた知識・経験を基盤として、児童生徒や保護者、地域の方々から慕われ、信頼されるようなコミュニケーション能力向上を支える「リスクマネジメント」を効果的に学び、身につけることができる研修プログラムの開発・構築を行った。

2. 開発の方法

平成27年度に「時事通信 教育プレミアムセミナー」として、全国の管理職や中堅教員を対象に最新教育事情の講義（講師：大槻達也・国立教育政策研究所長 当時、貝ノ瀬滋：教育再生実行会議有識者委員 当時 等）およびコンプライアンスについての講義・ワークショップ（講師：坂田仰・日本女子大学教授）を行ったところ、ぜひ継続して取り組んでもらいたいという評価を参加者よりいただいた。その中でも、特にリスクマネジメントについてのワークショップの満足度および次年度も継続して取り組んでもらいたいという期待が高かった。

平成28年度は、坂田仰教授が全国各地の教育委員会や校長会、教頭会等で行ってきた講義や、判例等の分析を元に演習用に開発した「設題」を用いたワークショップの取り組みを基盤として、学校における「リスクマネジメント」の感覚を養うワークブックと概説書の制作、動画コンテンツの制作に取り組むこととした。

また、カリキュラム開発・指導、研修講師を務めた河内祥子・福岡教育大学准教授が各地の教職員研修講座において、「リスクマネジメント」感覚を養うために、イラストを用いた危険箇所チェックの講義を行ってきており、その成果を基に、学校内外における危険場面を追加し、ワークブックを制作した。実際の研修会場では、学校のグラウンドにおける、部活動事故が起きやすい要因を探す「イラスト教材」を用いて「リスクマネジメント」の感覚を養った。実際に今年度も、生徒が投げた鉄球が別の生徒の頭部に当たり、亡くなるという痛ましい事故が起きている。まさにその課題も話題となったところであった。

また、研修に参加した教員の反応などを踏まえて、講義内容を改めて収録した動画コンテンツを制作した。これによって、校内研修等を行う際に、研修に参加していない教師もスムーズに「リスクマネジメント」を学べることとなる。

さらに、カリキュラム開発・指導、研修講師を務めた戸田恵蔵弁護士、ならびに小美野達之弁護士による、最新の判例解説に基づき、法的観点から、教育行為がにおけるさまざまな義務や責任がどのように判断されているかを、分かりやすく説明し、教育学の観点とは異なる視点からの指摘で、各班に分かれての演習における教員個人の振り返りに資することができた。

講義や演習に加えて、各種資料やワークブックを併用することで、研修講座の参加者が、今後、校内研修等において、より円滑かつ、確実に、得られた知識を持ち帰ることができることとなった。また、中学校と高校では、異なる文化や伝統があるため、改善のきっかけが得られるよう、普段、自らの勤務校や、勤務する地域とはあえて異なる地域や教科の教職員と「混成型チーム」を編成し、実際に起きた事故や裁判例を基にした研修用設題を用いて、どういった予防的対応を取ることで生徒や保護者、地域住民、学校を守ることができるかを実践的に学んできた。

本プログラム開発では、こうあってほしいという理念形ではなく、実際の紛争事案となり、裁判にまで至った事例などを用いながら、そこから得られる教訓を基に未然に事故を回避する「リスクマネジメント」を学ぶための教材開発と、校内研修で若手教員を指導する管理職や中堅教師向けの指導方法および教材の開発・構築を行った。

3. 開発組織

カリキュラム開発・指導 / 評価、研修講座講師

坂田 仰・日本女子大学教授

河内祥子・福岡教育大学准教授

戸田恵蔵・弁護士（銀座第一法律事務所）

小美野達之・弁護士（ほなみ法律事務所）

カリキュラム開発、教材開発、動画コンテンツ開発

剣持耕士・時事通信出版局取締役 総務管理部長

伊豆倉哲・時事通信社『内外教育』編集長

佐藤明彦・時事通信出版局『教員養成セミナー』編集長

坂本建一郎・時事通信出版局編集委員

開発の実際とその成果

1. 学校のリスクマネジメント講座

研修の背景とねらい

社会のありようが変わり、価値観が多様化する中で、「愛と情熱」だけで日々の教育を学校内で実践することが難しくなっている。また、教育行為を法的な観点から規定する「法化社会」が進行している。

中教審中間まとめは、こうした状況の背景として、「社会のグローバル化や都市化・過疎化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化、地域社会等のつながりの希薄化や地域住民の支え合いによるセーフティネット機能の低下などが考えられる。また、情報技術の発展により、各種の情報機器が子供たちの間でも広く使われるようになり、人間関係の在り様に変化してきていることもある」と指摘している。（中教審「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）」平成29年12月）。

社会の変化に伴い、学校が置かれている状況を的確に理解し、教育活動に熱心に取り組む先生が無用な萎縮をすることなく、また同時に、法令順守や「リスクマネジメント」の必要性を理解し、適切に実践することが重要となっている。しかし学校には、部活動事故、理科実験における事故、いじめ問題等、生徒指導に起因する問題など、学校に潜在的にある各種の「課題＝リスク」について、校内でオン・ザ・ジョブ・トレーニングを受ける機会は十分にあるといえず、また、教員養成段階でも、これまでは、学校安全や「リスクマネジメント」を十分に学んでこなかった。

本支援事業では、学校の「リスクマネジメント」の概要を全体講義で学び、その上で、グループに分かれて、イラストを用いた危険箇所確認、その後、実際の学校事故の判例等から構成した「設題」を基に議論を行い、成果を発表するという形式で、生きた知識としての学校の「リスクマネジメント」を学ぶことをねらいとした。また、研修会場で学んだことを自校に持ち帰り、校内研修等で実施することも目的としている。

平成29年度は沼津・三島市教委研修講座、人吉校長会研修講座、南九州広域研修講座の3回を実施した。以下、各研修講座の概要と評価について記す。

【沼津・三島市教委研修講座】

対象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の管理職、中堅教師、教育委員会等職員
静岡県沼津市教育委員会ならびに静岡県三島市教育委員会が協賛

人数：51名 管理職が5割、中堅職員が5割。 学校種は下記の通り

(小学校：20名
中学校：16名
高等学校：6名
特別支援学校：1名
教育委員会、センター等：8名)

日時：2017年10月28日(土)13:00～17:00

会場：コンベンションぬまづ407会議室(静岡県沼津市大手町1-1-4)

講師：坂田仰・日本女子大学教授
山田知代・帝京科学大学講師
戸田恵蔵・弁護士(銀座第一法律事務所)

【人吉校長会研修講座】

対象：小学校、中学校の管理職 熊本県人吉市校長会が協賛

人数：45名

(小学校：20名
中学校：25名)

日時：2016年12月8日(金)13:00～17:00

会場：鍋谷本館(熊本県人吉市九日町22-2)

講師：坂田仰・日本女子大学教授
黒川雅子・淑徳大学教授
河内祥子・福岡教育大学准教授
小美野達之・弁護士(ほなみ法律事務所)

【南九州広域研修講座】

対象：小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の管理職、中堅教師、教育委員会等職員
宮崎県、鹿児島県、熊本県の3県から参加

人数：46名 管理職が3割、中堅職員が7割。 学校種は下記の通り

(小学校：7名
中学校：18名
高等学校：10名
特別支援学校：5名)

教育委員会、センター等：3名

医師、スクールカウンセラー：3名)

日時：2017年12月9日(土)8:30~12:00

会場：中小企業大学校 多目的教室(熊本県人吉市鬼木町梢山1769-1)

講師：坂田仰・日本女子大学教授

黒川雅子・淑徳大学教授

河内祥子・福岡教育大学准教授

小美野達之・弁護士(ほなみ法律事務所)

各研修項目の内容、実施形態(講義・演習・協議等)、時間数

講義で全体像を理解した上で、個別具体的な事例を個人およびグループで検討する方式を取った。具体的には以下の手順で行った。

学校のリスクマネジメントの考え方について、坂田教授の概論を講義で学ぶ(90分)。

その後、リスクマネジメントの考え方を実践に移すために、「イラストで探す危険箇所」(別添資料1)に取り組み、その後、実際の学校事故や判例等から構成した「設題」(別添資料2)をグループに分かれて、どういう対応が考えられるかについて議論を通じて検討する(90分)。

グループごとに議論の成果を発表する(15分)。

最後に、坂田教授から発表内容に対するコメントを行い、議論をまとめる(15分)。

実施上の留意事項

一般的な研修においては、同地域、同学校種、同じキャリアステージの受講生が学ぶ形態が多いが、実際の学校では、職制も経験年数もさまざまな教員が力を合わせて学校を支えている。

本研修では、予定調和となりがちな発想や議論を避け、学びを深めるために、異なる地域、異なる学校種、異なるキャリアステージの教員をグループ分けして、普段、周りから聞く意見とは異なる考えを基に、新鮮な気持ちで考える機会を持てるようにした。

また、研修冒頭に概説として、現在の学校が置かれている状況や、学校事故が判例としてどのように扱われているかを最新の情勢を基に整理し、なぜ学校の「リスクマネジメント」が求められるのかを確認した上で、「イラストで学ぶ危険箇所」、実際の学校事故や判例等から構成した「設題」を基に、個別具体的な事例について学んだ。

また受け身的に受講するだけで終わったり、せっかくの議論の成果が宙に浮いたまま終わったりすることがないように、各グループが議論の成果を模造紙にまとめて、他の受講者に対して発表を行った(後掲の各会場資料写真参照)。研修において、ただ受講するだけ、ただ体験するだけ、ではなく、他のグループの成果からも学べるように配慮した。

研修の評価方法、評価結果

研修終了後、各会場でアンケートを行った。沼津会場と人吉会場についての回答結果は以下の通りである。

講義	役に立った	35人
	普通	0人
	役に立たなかった	0人
ワークショップ	役に立った	35人
	普通	0人
	役に立たなかった	0人

研修の感想・自由記述（抜粋）

【沼津・三島市教委研修講座】

・大変参考になりましたし、講義、ワークショップ、まとめのバランスが良く、とても勉強になりました。

・毎回、坂田先生の講義を拝聴させていただくと“怖くなる”というのが正直な感想です。そもそも学校教育から危険性をゼロにすることはできず、危険は内包されています。その中でもやはり預かっているお子さんが安全に生活、学習するのは当然のこと。“予見と迅速な対応”これからの視点で学校を見ていきたいです。有難うございました。

・長いかと思いましたが、内容がリスクマネジメントだったので、切実感があって、ワークショップでも考え、参加することができました。坂田先生の講義は大変分かりやすく、勉強になりました。

・具体的な事例について講義していただき、とても勉強になりました。ワークショップも、話し合いから考えを深めることができました。他地区、他校種の方と話すことで、視点を広げることができました。

・今回のワークショップのテーマは、どの班も同じような結論になっていた。だから、個人での演習にとどめ、その他のケーススタディも多くして、他の事例をもっと教えていただきたいかった。坂田先生のご講話は、内容も話し方も大変興味深く、もっと話を聞きたかった。

・様々な視点から、子どもの安全を守るための学校の体制、具体的な措置や配慮が必要なことをあらためて実感することができた。多くのガイドラインやマニュアルがあるため、整理して準備したいと思う。

・日常的に全体で研修していくことが必要であると痛感した。本当に日常的な問題ばかりで大変参考になった。特段の事情、合理的な配慮について、これからか投げていくことが必要です。予防的コンプライアンスに努めたい。

・坂田教授のお話は、何回でも何時間でも伺いたいと感じました。学校文化を法的な視点で見ていくというお話が印象的です。ワークショップは、校種をまぜたグループにいただいたことで収穫がありました。ありがとうございました。

・前半の講義では、自分も含め、先生方の感覚を磨くことが大切であることを実感しました。法的な視点から見ると、どうなのか知った上での行動をしていこうと思いました。

・ワークショップでも、いろいろの視点からの危険、学校としての配慮すべきことなど気づき、自分の学校でも気になることが見えました。

・講義が歯切れよく、とても聞きやすかったです。夏にも聞きましたが、何度聞いても OK です。他の職員にも聞かせたいです。

- ・ワークショップも良かったです。
- ・ワークショップの人数が4人でちょうどよかった。
- ・具体的に事案を説明していただけたことはよかった。
- ・身近な事例での話は興味深かった。
- ・校内に戻り、生かしていきたいと思います。有難うございました。
- ・講義だけでなく、ワークショップの中では貴重な意見を聞くことができました。
- ・難しい内容でしたが、楽しく、分かりやすい研修でした。
- ・大変勉強になりました。多くの方（先生たち）で研修ができると良いと思いました。
- ・坂田先生の講演もワークショップも大変勉強になりました。実際の事例をグループで検討してみて、部活動に対する自分の認識に少し誤りがあったことがわかりました。今後、ますます、危機管理意識を高めていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・多くの事例、裁判所の判断等、交えてわかりやすく伝えて頂きました。予見、回避措置は丁寧に行い、職員が全員、子どもの姿と法を見つめるようにしていきたいと思いました。
- ・具体的な事例を検討できて大変よかった。
- ・とても有意義な研修となりました。参加させていただいてありがたいです。
- ・部活動のことに關しては、小学校ではあまりないことですが、小学校でも様々なリスクがあり、それについて、どう対応していけばいいのか、ヒントがたくさん得られてよかったと思います。ありがとうございました。
- ・これまでなにげなく指導してきた安全管理でしたが、本日の研修での話を聞き、ガイドラインや校内でのマニュアルの大切さを改めて感じました。常に何ができるかを予測し、安全面の配慮を考えていかななくてはならないと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・リスクを完全になくすことは難しく、減らすことが大切だが、とらわれすぎず、本来の業務とのバランスを取っていききたいと思う。
- ・毎回、新しい情報をいただけて、大変勉強になります。
- ・これからの教育現場には、リスクマネジメントはとても重要なことなんだということがわかりました。
- ・日常の学校生活の中で、起こりそうなことが事例として挙げられ、分かりやすいですし、意識が高まります。あと10回くらいやりたいです。
- ・参考になりました。高校と中学とは少し違うので、もう一度、考え直さなくてはならないと思いました。
- ・大変勉強になりました。具体的な例をあげていただき、アクティブラーニングによる、法的側面を学ぶ機会が少なく、新鮮な内容でした。
- ・坂田先生のお話が事例中心でとても分かりやすく、参考になりました。また、ワークショップは意欲的な意見交換ができて、とても研修が深まりました。
- ・直接、坂田先生とはじめとした、みなさんに会い、お話をうけることができ、最新の情報を学ぶことができ、よかったと思います。ありがとうございました。

- ・普段、気に掛けないような判例の判断材料等、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とても充実した時間でした。
- ・研修内容はとても濃かったです。
- ・本市でも、今後も引き続き、研究を深めていきたいと思います。
- ・事例紹介の中「養護教諭が大丈夫と言った」という言葉があった。学校という限られた設備、人材の中で子どもを見る難しさは常々感じますが、その中で、アセスメントの根拠、記録を残すことの大切さや重みを改めて感じました。判断、対応の際には、管理職、担任らと複数で対応（報連相）していきたいと強く感じた。
- ・8月上旬に、沼津市で、お話を伺った際に、とても勉強になりましたが、さらに新しい内容も加えていただき、ありがとうございました。たっぷり時間をかけて、ワークショップができ、他班の発表をうかがえたことも、とてもいい機会になりました。
- ・無償でこのような研修を設けていただき、ありがとうございました（註：教職員支援機構の委嘱事業に採択されたためということは会の中で触れております。）
- ・本日はありがとうございました。坂田先生の話、プラス、ワークショップは自分にとって、とても大切なものとなりました。学校に戻り、本日の研修をアレンジして、若手に伝えたいと思います。ありがとうございました。
- ・学校は常に危険と隣り合わせの状況で活動が行われている。大きな事故などを起こさないよう、できる限りの配慮をしていく必要はあるが、白黒をはっきりさせることは難しい。とても有意義な講義でした。ありがとうございました。
- ・4時間は長いと思っていましたが、充実した内容のため、短く感じました。
- ・ワークブックを校内研修で有効利用していきたいと思います。
- ・難しい時代ですが、アンテナを高く、頑張りたいと思います。
- ・校種いりまじってのワークショップはとても参考になった。
- ・「学校のリスクマネジメントワークブック」を職員研修で参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・小、中、高、特支、それぞれの視点で話し合うことは意味深く思えました。バランスを取ることが大事ということが心に残りました。
- ・学校のリスクマネジメントは、これからの学校経営の核になると感じた。
- ・ワークブックは、校内での研修に大いに役立ちそうです。ありがとうございました。
- ・ワークショップの事故例について裁判となった場合、学校の責任のみに視点が向けられていましたが、A（註：保護者）には責任がなかったのでしょうか。
- ・とても有意義な研修内容でした。たいへん勉強になりました。
- ・ぜひ定期的、あるいはまめに開催してください。ありがとうございました。
- ・わかっている、改善していなかったことに、あらためて目を向けることができました。予見する目で、もう一度、見直そうと思いました。
- ・会場がもうすこし広いと、椅子や机の移動がしやすかったと思います。

【人吉校長会研修講座】

- ・多くの事を学ぶことができ感謝しています。
- ・とてもわかりやすい講話でした。ワークショップは10班あったので、演習課題が2パターンくらいあってもよいかと思いました（時間の設定・配分に工夫はいると思いますが）
- ・勉強になりました。できればじっくり勉強したいです。
- ・今までにない内容でとてもよかったです。
- ・講話：わかりやすく、とても役立ちました。自分の学校に当てはめて考えることができ、明日からの危機管理に役立てていきたい。ワークショップ：本日のような研修を校内でもやってみようと思いました。
- ・大変役に立つ研修でした。保護者の質の変化が顕著で、対応に苦慮している状況も多くなっています。それに対応していくための参考になりました。ありがとうございました。
- ・とても身近な内容で、かなり参考になりました。校長の意識と職員の意識を同じにしていく必要性を改めて感じ、今回の研修をもとにいろいろ取り組みたいと思っています。
- ・スクールコンプライアンスという堅い話、内容だと思っていたが、時間を忘れるほど、楽しい研修でした。自分自身の知見を高め、職員を育てていきたいと思う。お帰後、子どものためにがんばる職員を守り、育てていきます。
- ・いろいろな事案から危機管理について深く考えることができました。未然防止のため、職員への意識付けを繰り返し行っていきたいと思います。チームでの講義、ワークショップが大変リズムカルで、集中して研修できました。
- ・たいへん役に立ちました。日頃、ぼやっとしていると自覚してしまいました。様々なリスクをマネジメントすることが大事故を防ぐことにつながるのだと改めて考えることができました。怖さを知ることが大切ですね。
- ・本日はありがとうございました。講義もワークショップもたいへん参考になりました。スクールコンプライアンスの研修を通じて、いつも危機管理、事故防止の思いを確認させていただいています。本日の研修もそのような内容であり、リスクマネジメントに対する意識を高めることができました。勉強しなければならぬと改めて感じましたし、本稿の先生方も少しでも伝えていきたいと思いました。ワークブックも素晴らしいと思います。参考にさせていただきます。
- ・ワークショップで情報交換しながら理解を深めることができた。何度お聞きしても、坂田先生の講義は大変参考になります。法的にも詳しくなって、安心安全な学校づくりを目指したいと思います。
- ・大変有意義であったという間の研修でした。ありがとうございました。
- ・学校経営を行うにあたり、勉強になりました。「子どもの安全を守る」ことの大切さを痛感しました。「学校のリスクマネジメントワークブック」も活用したいと思います。子供を守る、職員を守るために今後、深く考えていきたいと思います。模造紙での発表も、研修ではやっていますが視覚化され、各班の意見も聞けてよかったです。
- ・研修で実感できたことを職員にしっかりと伝え、理解させたいと思いました。資料もいただき、ありがとうございました。

・学校安全については、我々教職員がまず第一に意識していくべきものであることを再確認できました。リスクマネジメントを徹底し、未然防止に対しての職員の意識を高めていきたいと思ひます。

・スクールコンプライアンスに対して認識を深めることができた。是非、校内研修に組み入れたいものです。

・とても勉強になりました。自校でも他の職員へ伝えていきたいと思ひました。

・講義：とても聴きやすく、分かりやすく、ありがたい内容でした。ワークショップ：じっくり考えることができ、自校でも使いたい内容でした。

・事例を通してとても役立つ研修でした。校長としての義務、責任の大きさを重く感じました。法的、科学的な知見、感性をもっと磨きたいと思ひます。

・講義では、学校現場のことをよくご存知で、また理解もされている講師の方々から、たいへん具体的でわかりやすいお話をしていただきました。また、ワークショップではテーマに沿ってたくさんの意見を出しながら、有意義な時間を過ごせました。3時間があっという間にすぎた気がしました。

・新しい情報を学ぶことができ、大変勉強になった。

・講義とワークショップにより、スクールコンプライアンスの重要性が再認識されました。大変刺激的な内容で、明日からでも学校内のマニュアル等を見直してみたいと思ひました。また、校内研修でもぜひ取り組みたいと思ひました。

・具体的事例をもとにわかりやすく、楽しい内容で、とても勉強になりました。ありがとうございました。学校全体で学んだことを共有し、しっかりと子ども達の命を育てていきたいと思ひます。

・具体的事例が示されていたので、自校を思い浮かべながら研修を進めることができ、大変有意義であった。

・本日は5人の関係者の方々にご指導いただいたことに感謝します。

・専門家の講話はとても説得力があり、納得できるものばかりでした。ありがとうございました。

・多くのスタッフの皆さまにお世話になりました。ありがとうございました。

・とてもありがたい内容でした。ありがとうございました。

・大変わかりやすい内容の研修でした。ありがとうございました。

【南九州広域研修講座】

・学校にある様々なリスクをグレーゾーンという視点で見ることが実に面白かった。リスクを減らす事前の取組や事後の対応を行っていかうと思ひた。

・普段出会わない先生の方たちとお話しできたことがよかった。リスク要因を定期的に報告・検討することはどの分野でも大事だと思ひた。

・3時間があっという間に過ぎ、とても充実した研修になりました。今日学んだ内容を今後の学校教育活動に生かしていきたいと思ひます。有難うございました。

・教員間の気づきの共有をちゃんとできる学校の雰囲気づくりの大切さを感じました。報・連・相についても、話がうまくできる雰囲気をふだんからつくる必要性を改めて感じました。

- ・具体的な事例、判決などを基にお話が聞けて、大変有意義でした。しっかりと今後につなげていきたいと思います。有難うございました。
- ・講義、ワークショップとも初めての内容で、重くも楽しく、明日からの仕事に新たな課題、視点が持てました。ありがとうございました。
- ・実際にあった判例をもとに説明していただき、本当に参考になりました。まだまだ勉強したいと思いました。また機会があれば参加したいと思います。
- ・とても勉強になったと同時に、不安にもなりました。正直、自分の学校ではできていないことが多いように思います。又、「感性」というキーワードが、私たちの危機管理につながるということがとても大きく感じられました。常に「学ぶ」気持ちをもっていきたいです。
- ・事前のマネージメントの重要性、ひきだしを増やす努力等（横のつながりも）、何かあってからでなく、日常からの意識が重要だと思いました。
- ・延岡から参加しました。来てよかったと思います。教員も、市、県教委もまだ甘いと思います。
- ・坂田先生のお話はもちろんですが、小美野先生の話が違った視点でよかった。
- ・いつもながら多くの気付きがある研修でした。管理職として、子どもの命と職員のがんばりを支えるために、もう一度、リスクマネジメントを学びたいと思います。
- ・風通しのよい職場がキーワードになると思いました。また、リスクをゼロにはできないので、減らすだけ減らして、残ったリスクを引き受けられるような学校経営がしたいです。
- ・大変勉強になりました。欲をいえば、もう少し時間があるとありがたいです（無料で儒呼応させていただいたのに、すみません！）。ありがとうございました。
- ・判例とかを聞くと、自分の認識と異なる見解もあり、リスクを回避するセンスを、いろいろな人との交流で学ぶ必要があると思った。校内研修などでみんなで共有したい内容でした。
- ・具体的な事例を元に、大変勉強になった。
- ・講義＋ワークショップ、あっという間に過ぎました。とても充実した研修でした。
- ・判例に基づき、とてもわかりやすかった。
- ・大変おもしろく、勉強になった。更に勉強したいと思いました。
- ・判例をもとに話が聞け、勉強になりました。
- ・いろいろな職種の方との協議ができて、楽しかったですし、とても参考になりました。リスクマネジメントの研修を進めてみたいと思いました。
- ・1．非常に濃い時間でした。ワークショップがとてもよかったです。様々な角度から見ることができました。2．講師の先生方の話はとてもおもしろかったです。失敗例がいかに大切かあらためて認識できました。子供たちにも話ができます。3．自分の学校のことを考えると、すぐにでも対応できることが大切だと思いました。
- ・他業種（グループワークにおける医師）との意見交換ができてとてもよかった。3時間とは思えない密度の濃さでよかった。
- ・いい研修になりました。感謝します。
- ・講義とワークショップの二本立てで、自分自身のリスクマネジメントの低さに気づくことができました。時代が変わりゆくなかで、裁判例などの法律に関する情報も意識を持ちたいと思います。
- ・ワークショップでは、個人では気づけなかったことがたくさん出されていて、大変ありがたかつ

た。

・演習内容が部活動に関するものであったので、小学校に先生にはイメージしにくい事例であったと思う。高校の教員にとっては役立つ内容であった。自分の認識の程度を確認するたいへんよい機会となった。講師の先生方、たいへんありがとうございました。

・法律分野と学校とのつながりを強めることが長い目で見れば一番大切だと思った。

・今後、部活動について学んだこと等を生かしながら、事故を未然に防げるような指導をしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

・とてもよい研修でした。ありがとうございました。

・初めて参加しましたが、大変参考になりました。目からウロコでした。法的視点をとぎすませたいと思います。

・今日は有意義な時間、心温まる時間となりました。ありがとうございました。また参加したいです。

・ありがとうございました。

・大変勉強になりました。これからもぜひ参加させてください。

・本などもいただき、大変ありがとうございました。熊本県教職員組合人吉球磨支部の支部長をやっていますが、職員を守るという立場からも、機会があれば、講演会などを開催したい内容だと思いました。

・宮崎からの参加でした。来てよかったです。

・多くの視点が生まれました。ありがとうございました！！

・偶然でしたが、昨夜、懇親会で一緒にできてよかったです。つながりが大切だと思います。スタッフの皆さま、大変ありがとうございました（相良北小、岩崎秀幸）

・豊富な資料等、ありがとうございました。

・他校種、他県の方々と話し合うことができ、自分の考え、価値観を客観化することができた。ありがとうございました。

【沼津・三島市教委研修講座の様子】



坂田教授による講義



戸田弁護士による演習課題の説明



河内准教授による演習課題の説明



受講者による「設題」の検討



受講者による「設題」の検討



受講者による検討結果の発表



戸田弁護士による講評と分析



坂田教授による全体講評とまとめ

【人吉校長会研修講座の様子】



坂田教授による講義



黒川教授による演習課題の説明



河内准教授による「イラスト課題」の説明



同



受講者による「設題」の検討



受講者による検討結果の発表



小美野弁護士による講評と分析



黒川教授による講評と分析

【南九州広域研修講座の様子】



坂田教授による全体講義



同



河内准教授による「イラスト課題」の説明



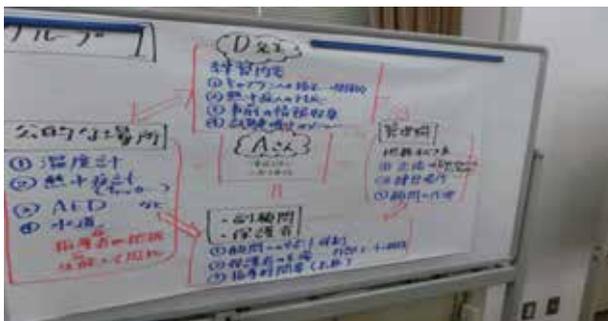
黒川教授による演習課題の説明と検討



受講者による「設題」の検討



同



受講者による「設題」の検討結果



小美野弁護士による講評と分析

ウェブサイト・動画コンテンツによる学びのフォローアップ

本研究開発プログラムにおいては、参加者が、各会場において学んだことを自校の校内研修等において、講師役として展開できるスキルを身に付けることを目的としている。

そのため、平成28年度本事業にて構築したウェブサイトをもさらに充実させる形で、会場における講義内容や、イラストを用いた学びを復習できるよう、特設のウェブサイト (<http://www.school-risk-management.com/>) を構築した。



ウェブサイトのデザイン

参加者は上記サイトにアクセスし、坂田教授、河内准教授による講義を学ぶことが可能となる。また、会場にて使用したワークブックを用いて、校内研修を展開することができる。

さらに、研究成果を活用した書籍、ワークブックを製作した。これらを用いて、学校のリスクマネジメントの感覚を学ぶことが可能となる。

研修実施上の課題

効果的な日時の設定

「働き方改革」が喫緊の課題となる中で、学校が直面する重要課題の研修の時間を確保するのにもまならないのが現状である。今回も、沼津・三島市教委研修講座のアンケートでは、土曜日午後の設定ではなく、平日午後の設定も検討してもらいたいという要望があった。

また、一方で、南九州広域研修講座の参加者は、遠くは宮崎県延岡市から4時間かけて参加した先生もおられ、貴重な研修機会を逃すまいという意欲ある先生方の漢族度は高いものであった。

効果的な研修日時の設定は、難しい側面があるが、参加者の意欲を勘案しつつ、より効果的な二日時設定を検討していきたい。

また、同時に、研修ウェブサイトを用いた研修の振り返りや、自校内での研修に効果的に使うなどの工夫も、引き続き検討課題である。

しかし、受講後アンケートの自由記述に現れている参加者の満足度を考えると、リアルな研修講

座の受講と、ワークショップ参加による主体的、対話的、かつ深い学び（アクティブラーニング）に勝るものはないと思われる。

演習内容・形態

4時間程度の講義から演習（ワークショップ）という流れは、長いように思われるが、問題の全体像を理解し、自校の課題をそこに結び付けながら実際に頭を働かせた後で、あえて異校種、異学年等で構成された班に分かれて、協同的な意見交換ならびに、発表に向けた作業を行い、時間内に成果をまとめあげるといった形が最適であるという評価を多数いただくことができた。

大規模な会場設定も検討したが、人数を増やすと、講師の指導や、研究発表の時間の制約等、きめ細かい対応は難しくなり、受講者の深い学びや満足度をみやすことが難しくなることが考えられる。

これについては、規模と学習効果の測定なども含めて、さらに今後の課題としていきたい。

その他

[キーワード] 学校のリスクマネジメント、学校事故、校内研修、コンプライアンス、危機管理

[人数規模]

沼津・三島市教委研修講座 51人

人吉校長会研修講座 46人

南九州広域研修講座 47人

[研修日数(回数)]

沼津・三島市教委研修講座 1回

人吉校長会研修講座 1回

南九州広域研修講座 1回

【問い合わせ先】

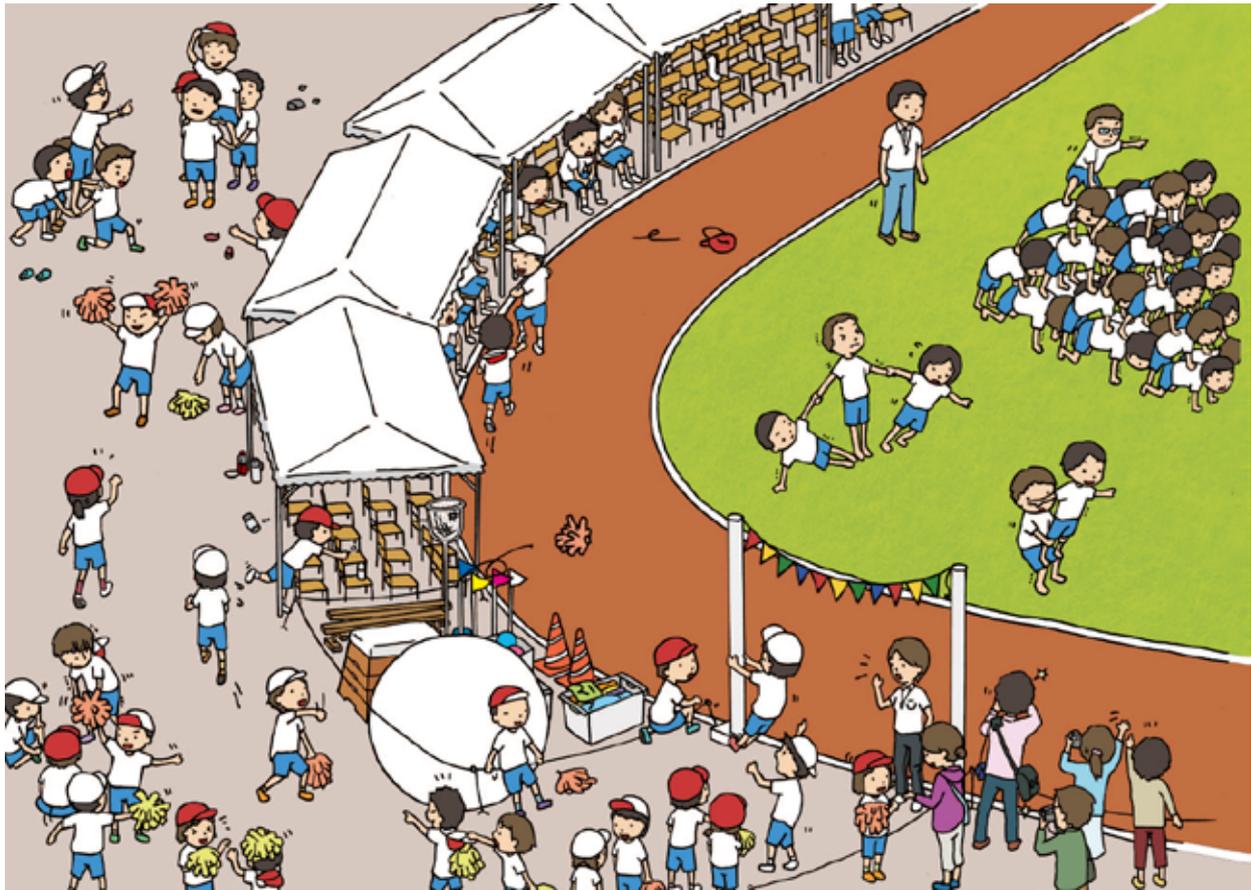
(株)時事通信出版局

〒104 8178 東京都中央区銀座5 - 1 5 - 8 時事通信ビル4階

TEL 03-5565-2159

担当 坂本 建一郎

別添資料1 イラストでチェックする運動会の危険箇所



実際に運動会で起こりがちな危険箇所をイラストで起こした。

設題 5

発達障害を有する 児童のいじめ

状況説明文

Aは、B市立C小学校の3年生児童である。発達障害（ADHD）の傾向を有しており、他の子どもをからかったり、ちょっかいを出したりすることが多く、また時には粗暴な振る舞いをすることもあった。そのため、度々、クラスメートがアザ等をつくり、苦情が寄せられ、担任はその都度、Aの保護者と話をしている。しかし、保護者は、Aは親愛の情を示しているだけで、個性として受け止めて欲しいと繰り返すばかりであった。

10月10日、1時間目終了後、教員Dが図書室の前を通りかかったところ、Aが、同じクラスの児童Eをからかっているところを見つけた。Eから、4月以降、いつも同様の行為を受けて迷惑をしているとの訴えを聞いていたDは、Aを制止し、「このようなことをしてはいけない」と注意した。

10月11日、Eの保護者から担任に電話があり、Aの行為はいじめに該当すると思われるので、きちんと対処して欲しい旨の申し出を受けた。保護者によれば、EがAに会うことを嫌い、登校を渋るそぶりを見せているという。

担任教員がEから事情を聞いたところ、Eは、Aの行為に苦痛を感じているとのことであった。そこで、担任教員は、管理職も交え、Aの保護者と話し合いの場を設け、日頃の状況とともに、今回の訴えについて説明した。

これに対し、Aの保護者は、「Aを差別するのか」と激怒し、Aの個性をまわりの生徒が受け容れるのが当然ではないかと主張して譲らない。折しも、障害者差別解消法が施行されたこともあり、C小学校の教員は頭を悩ませている。

問

以下の点について検討せよ。

1. AのEに対する行為は、いじめと認定するべきか。
2. Aの保護者の主張をどのように考えるべきか。
3. 危険な行動を繰り返す、Aに対してどのような方針で指導を行うべきか。